

平成30年3月期 決算説明会

平成30年6月1日
株式会社 N F Kホールディングス
東証JASDAQ（証券コード6494）

目 次



-  1 会社概要
-  2 事業内容
-  3 平成30年3月期 決算概要
-  4 今後の戦略について
-  5 参考資料

会社概要&沿革



会社概要

平成30年3月現在

商 号	株式会社N F Kホールディングス	事 業 内 容	持株会社（燃焼装置関連事業）
本 社	横浜市鶴見区尻手2丁目1番53号	事 業 所 ※	横浜市鶴見区／大阪／豊田／静岡工場
代 表 者	代表取締役社長 関口 陽介	関 連 会 社	連結子会社1社、持分法適用会社1社
設 立	1950年4月12日	決 算 日	3月31日
資 本 金	2,131百万円	発行済み株式数	30,713,342株
売 上 高	2,369百万円（平成30年3月期連結）	上 場 証 券 取 引 所	東証JASDAQ（証券コード：6494）
従 業 員	94名	単 元 株 式	100株

※子会社含む

沿革

年 月	主 な 出 来 事
昭和25年 4月	日本火熱工業材料株式会社を設立
昭和25年 6月	日本ファーンズ工業株式会社に商号変更
昭和37年 8月	横浜市鶴見区に本社事務所建設
昭和38年 5月	日本証券業協会に株式を店頭登録
平成11年 6月	鶴見工場売却
平成16年 12月	ジャスダック証券取引所に上場
平成18年 10月	商号を株式会社N F Kホールディングスに変更
平成18年 10月	日本ファーンズ株式会社（現・連結子会社）を設立
平成20年 10月	株式会社ファーンズE Sを設立
平成25年 6月	日本ファーンズ燃焼技術研究所設立
平成30年 4月	日本ファーンズ株式会社を存続会社、株式会社ファーンズE S消滅会社とする子会社合併を実施

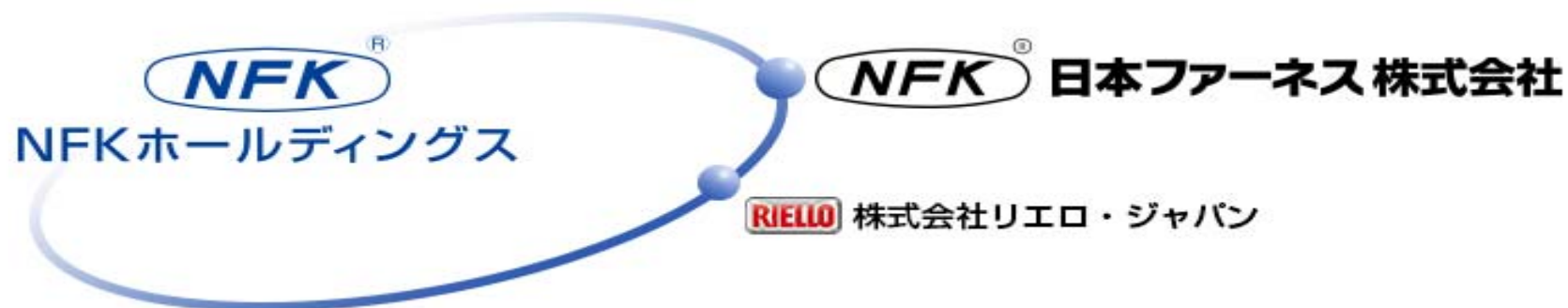
企業理念および企業グループ



N F Kホールディングス 企業理念

当社は長年培った燃焼技術を基に、絶え間ない努力とチャレンジによって、最先端技術を社会に提供し、地球環境保全と循環型社会の実現に貢献するとともに、株主の皆様は勿論、企業を支えるお客様や取引先、社員、地域社会等の全てのステークホルダーの繁栄を目指して事業活動を行います。

企業集団の構成

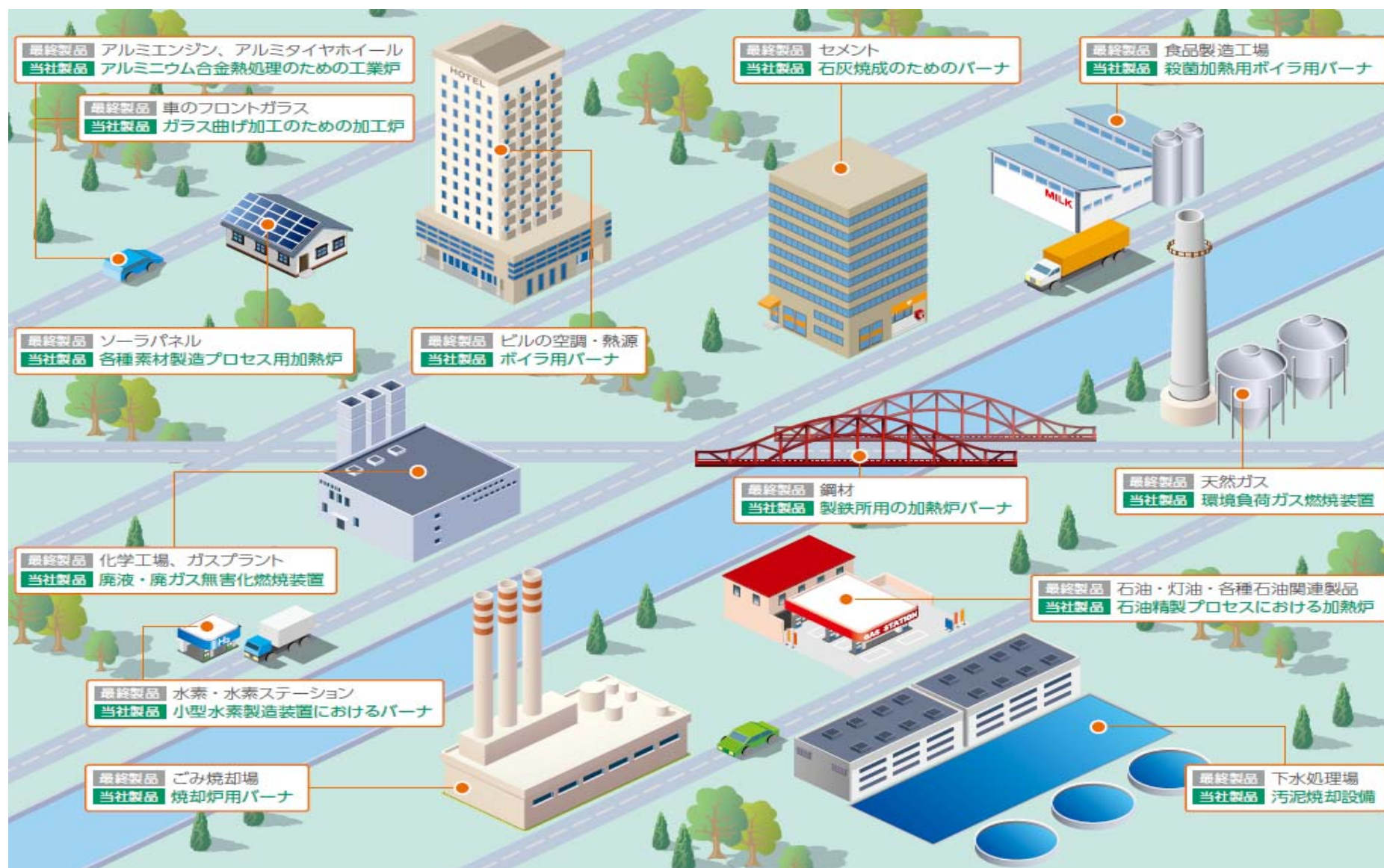


会社名	事業内容	売上高
日本ファース株式会社	燃焼関連装置製造販売	2,201百万円

※株式会社リエロ・ジャパンは持分法適用関連会社となります。

※株式会社日本ファースと株式会社ファース E Sは平成30年4月1日付で合併致しました。

当社製品の社会とのかかわり



目 次



-  1 会社概要
-  2 事業内容
-  3 平成30年3月期 決算概要
-  4 今後の戦略について
-  5 参考資料

事業内容



1. プラントエンジニアリング事業

- ・産業機械関連
- ・ガス石油関連
- ・環境関連



2. 燃焼機事業

- ・金属加熱関連
- ・ボイラ関連



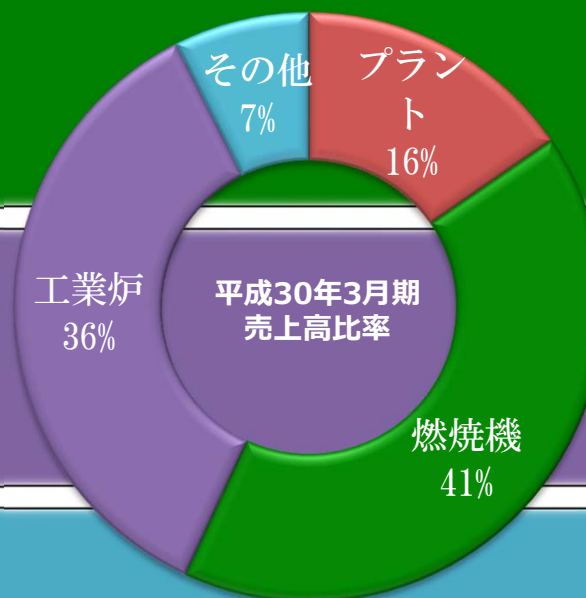
3. 工業炉事業

- ・自動車関連
- ・金属加工炉関連



4. その他

- ・メンテナンス事業
- ・その他



プラントエンジニアリング事業



- 石油精製、石油化学、窯鉱業等の各種プラント用燃焼装置や加熱装置、環境に配慮した焼却設備やプロセス装置、廃液廃ガス焼却装置が主力。

【主な取り扱い製品】

- ロータリーキルン用バーナ
- 熱風発生炉・加熱炉
- 廃液・排ガス・焼却設備

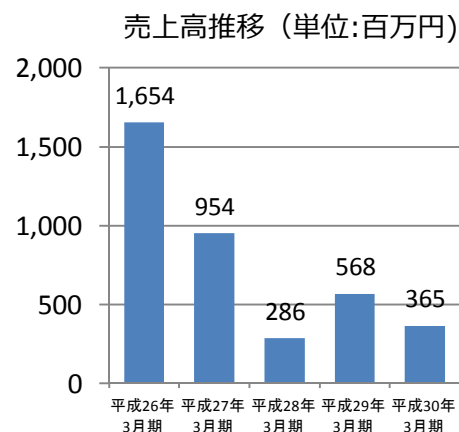
⇒ セメントメーカー

⇒ 石油・化学関連企業

⇒ 化学関連企業、天然ガス関連企業

Pickup !

- 蓄熱式ラジアントチューブ燃焼システム
高温空気燃焼技術を鉄鋼用熱処理炉など各種熱処理炉に適用可能かつ低NOxを同時達成。
ラジアントチューブ用ハニカム内蔵型リジネレイティブバーナ。



ロータリーキルンバーナ



特殊熱風発生炉(高圧型)



空気加熱炉



HRS-UXバーナ



硫黄回収装置



廃液＆廃ガス燃焼装置



工業炉事業



- セラミックハニカム（蓄熱材）搭載のリジェネレイティブバーナを適用した高性能工業炉を数多く提供。

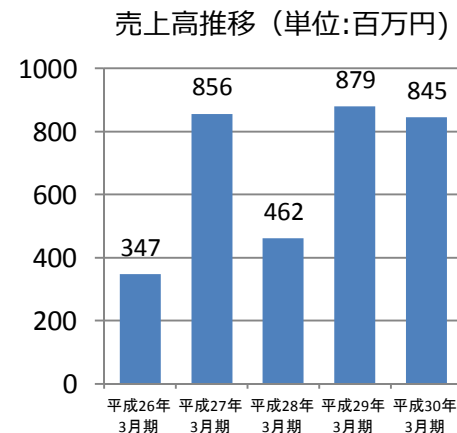
【取り扱い製品】

- バスケットレス回転炉、各種連続炉 ⇒ 自動車メーカー、自動車部品メーカー
- 各種熱処理炉、台車型焼鈍炉 ⇒ 熱処理関連企業、金属加工企業

Pickup !

■ バスケットレス回転炉

日本機械工業連合会 優秀省エネルギー機器『経済産業大臣賞』受賞。バスケットレス化を実現したことにより、従来製品より42%もの省エネ化を実現。
多くの国内自動車メーカーに採用されている。



バスケットレス多段回転炉



2階建 A L 鋳物 T 6 熱処理炉



多目的合金鋼バッチ炉



バッチ式熱処理炉 (R T 式)



バッチ式熱処理炉 (直火式)



燃焼機事業



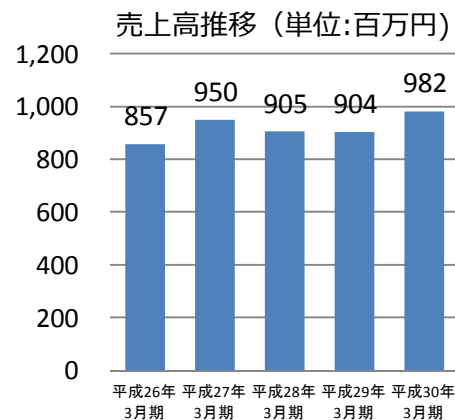
- 高効率で低NO_x性に優れたボイラ用バーナ、各種バーナなど、最新の熱技術によるバーナ製品を設計・製造・販売。

【取り扱い製品】

- ボイラ用バーナ、ガラスエコマイザー ⇒ ボイラメーカー
- ラジアントチューブバーナ ⇒ 鉄鋼関連企業

Pickup !

- 蓄熱式ラジアントチューブ燃焼システム
高温空気燃焼技術を鉄鋼用熱処理炉など各種熱処理炉に適用可能かつ低NO_xを同時達成。ラジアントチューブ用ハニカム内蔵型リジネレイティブバーナ。



水素バーナ



ULN型低NO_xバーナ



ガラス製熱交換器



連続焼鈍設備用HRSRTバーナ



鍛造加熱炉用HRS-DLバーナ



鍛造加熱炉用HRS-DLバーナ



大型案件受注状況

★大型案件受注状況

(平成30年3月期受注案件)

自動車関連会社様より、各種アルミ熱処理設備の受注。
売上高約1.5億円。

大手鉄鋼会社様より、予熱用バーナ設備の受注。
売上高約1.1億円。

(平成29年3月期受注案件)

自動車関連会社様より、各種アルミ熱処理設備の受注。
売上高約3億円。

国内重工業会社様より、大型燃料転換工事等の受注。
売上高約1.5億円。

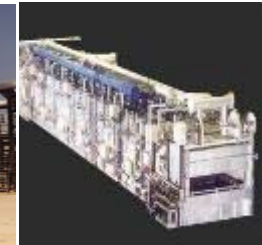
(平成28年3月期受注案件)

国内製鋼会社様より、バスケットレス回転炉の受注。
売上高約3.5億円。

硫黄回収装置



自動車用ガラス曲加工炉



インシネレータ
(廃ガス廃液焼却炉)



大型加熱炉



2階建AL鋳物T6熱
処理炉



バスケットレス回転炉



各種受賞歴



受賞年	対象	受賞内容
2018年	自己排ガス再循環型ラジアントチューブバーナ	(社)日本機械工業連合会 優秀省エネルギー機器会長賞 (共同受賞)
2015年	省エネルギー功労賞 (当社職員)	(一財)省エネルギーセンター
2014年	高温水蒸気ガス化技術によるバイオマス化システム	米国機械技術者協会ランディスメダル賞
2009年	多段熱回収システム搭載型コンパクト水素製造装置	(社)日本機械工業連合会 優秀省エネルギー機器会長賞 (共同受賞)
2006年	バスケットレス多段回転炉床式アルミニウム合金熱処理炉	(社)日本機械工業連合会 優秀省エネルギー機器 『経済産業大臣賞』
2006年	高温空気燃焼制御技術の研究開発	(社)日本エネルギー学会 学会賞 (共同受賞)
2004年	熱利用技術の発展のためのマネージメント能力およびリーダーシップ	米国機械技術者協会ランディスメダル賞 (共同受賞)
2001年	高温空気燃焼装置の開発	米国機械技術者協会ジョージ・ウエスティングハウス・銀賞
2000年	環境調和型蓄熱式低NOx燃焼技術	(一社)日本発明協会発明実施功績賞並びに発明賞 (共同受賞)
1999年	HRS燃焼システム	(公財)大河内記念会 大河内記念大賞 (共同受賞)
1999年	高性能工業炉開発プロジェクト	(社)日本工業炉協会 日経地球環境技術大賞
1999年	中・小口径HRSラジアントチューブバーナ	(社)日本機械工業連合会 優秀省エネルギー機器表彰 (共同受賞)
1999年	小型高純度水素製造装置	(社)日本機械工業連合会 優秀省エネルギー機器表彰 (共同受賞)

「自己排ガス再循環型ラジアントチューブバーナ」



～～ 平成29年度日本機械工業連合会会長賞を受賞 ～～
(JFEスチール株式会社様との共同受賞)

- ☆連続焼鈍炉をはじめとする熱処理用ラジアントチューブバーナ
- ★排ガスを再循環させる新発想の超低NO_xバーナとコンパクトレキュペレータ
- ☆世界トップレベルの低NO_x性能を実現
- ★既に、導入実績もあり、省エネ性能についても実証済み

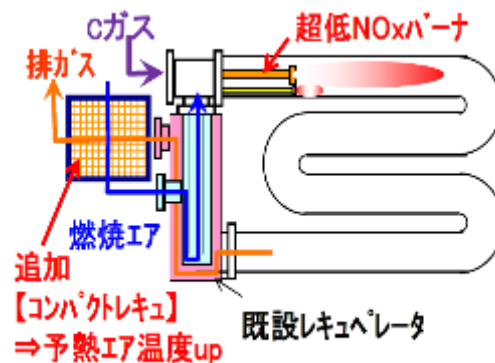


図1 自己排ガス再循環型ラジアントチューブバーナ



N F Kグループの強み



1. 卓越した技術力

- 高温空気燃焼等の様々な新技術の発見、導入
- 多数の受賞歴
- 60年以上の経験と実績に基づく圧倒的な技術

2. カスタムメイド

- 受注生産により、顧客のきめ細かい要望に対応
- 鉄鋼、非鉄、熱処理、窯業、石油化学・天然ガスプラントなど多分野へ供給
- 在庫リスク等は極めて低い

3. 高い製品信用力

- 高性能・高機能の製品分野に強み
- 高いリピートオーダー率

4. 優良な顧客基盤

- 販売先は大手優良企業が大部分を占める

5. ファブレスで柔軟な経営

- 自社工場生産は約 1 割程度
実質的なファブレス企業
- 経営的選択肢が極めて豊富

6. 豊富な知財・特許

- 今まで取得した特許は
国内特許、海外特許合わせて累計1000件以上

目 次



- 1** 会社概要
- 2 事業内容
- 3** 平成30年3月期 決算概要
- 4 今後の戦略について
- 5 参考資料

連結損益計算書



(単位：千円)

	平成29年3月期	平成30年3月期	前期比増減額	前期比増減率
売上高	2,590,466	2,369,203	△ 221,262	△8.54%
売上総利益	431,149	548,969	117,819	27.33%
販売費及び 一般管理費	570,461	556,519	△ 13,942	△2.44%
営業損失	△139,312	△ 7,549	131,762	—
経常利益（損失）	△142,945	2,070	145,016	—
税金等調整前 当期純利益（損失）	△142,945	6,251	149,197	—
親会社株主に帰属する 当期純損失	△179,623	△ 2,347	177,275	—
包括利益	△169,723	12,079	181,802	—
EBITDA	△116,110	12,567	128,678	—

※EBITDA=（営業利益△7,549+減価償却費20,117）

売上高増減の内容

< 案件規模別 >

(単位：千円)

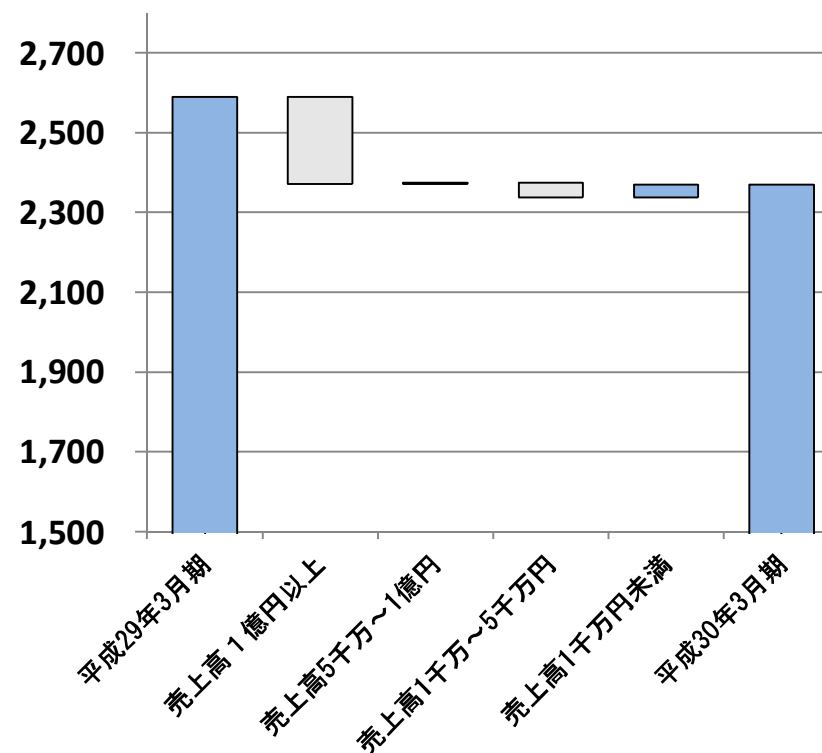
	平成29年3月期	平成30年3月期	前期比増減額	前期比増減率
売上高	2,590,466	2,369,203	△ 221,262	△8.54%

(単位：千円)

	売上高
平成29年3月期実績	2,590,466
売上高 1 億円以上の案件増減分	△218,469
売上高5千万円以上の案件増減分	3,093
売上高1千万円以上の案件増減分	△38,449
売上高1千万円未満の案件増減分	32,563
平成30年3月期実績	2,369,203

- ・前期大型案件があった反動から 1 億円以上の案件が減
- ・1 千万円以下の案件増

(単位：百万円)



売上高増減の内容



< 部門別 >

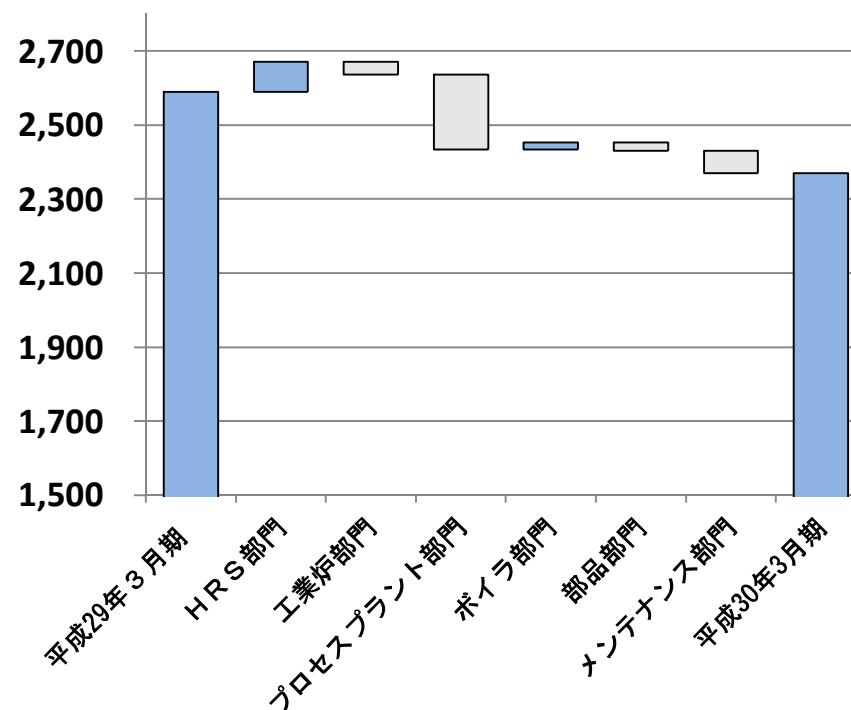
(単位：千円)

	平成29年3月期	平成30年3月期	前期比増減額	前期比増減率
売上高	2,590,466	2,369,203	△ 221,262	△8.54%

(単位：千円)

	売上高増減
平成29年3月期実績	2,590,466
H R S 部門 (燃焼機)	80,053
工業炉部門	△33,564
プロセスプラント部門	△203,775
ボイラ部門	19,537
部品部門	△22,149
メンテナンス部門	△61,364
平成30年3月期実績	2,369,203

(単位：百万円)



- ・H R S 部門 (燃焼機) 強化により
売上高の増加
- ・原油安の影響を受け
プロセスプラント部門が低調に推移

営業利益増減の内容

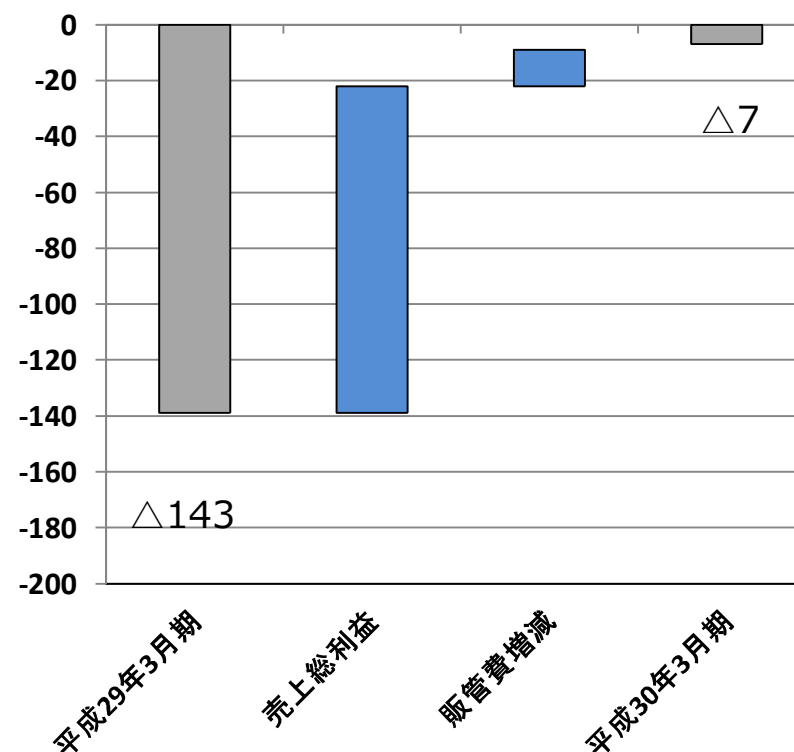
(単位：千円)

	平成29年3月期	平成30年3月期	前期比増減額	前期比増減率
営業利損失	△139,312	△ 7,549	131,762	—

(単位：千円)

	営業損失増減
平成29年3月期実績	△139,312
売上総利益の増加	117,819
販売費及び一般管理費の減少	13,942
平成30年3月期実績	△ 7,549

(単位：百万円)



- ・売上高減少ながらも、前期特殊要因解消により売上総利益が増加
- ・販売費及び一般管理費の圧縮の継続

連結貸借対照表



(単位：千円)			
科 目	平成29年3月期末	平成30年3月期末	増 減
流動資産	2,696,753	2,565,960	△ 130,793
固定資産	1,000,072	1,206,312	206,239
資産合計	3,696,825	3,772,272	75,446
流動負債	602,374	685,448	83,073
固定負債	403,644	383,938	△ 19,705
負債合計	1,006,019	1,069,386	63,367
資本金	2,131,532	2,131,532	0
資本剰余金	40,280	40,280	0
利益剰余金	67,851	65,503	△ 2,347
自己株式	△210	△210	0
株主資本合計	2,239,453	2,237,105	△ 2,348
その他の包括利益累計額合計	451,352	465,779	14,427
純資産合計	2,690,806	2,702,885	12,078
負債純資産合計	3,696,825	3,772,272	75,446

(単位：百万円)		
【流動資産】 () 内は前期末比増減		
現金・預金	1295百万円	(△ 137 百万円)
受取手形・売掛金	803百万円	(118 百万円)
仕掛品	91百万円	(△ 3 百万円)
【固定資産】		
土地・建物等	778百万円	(△ 7 百万円)
投資有価証券	347百万円	(224 百万円)
保険積立金	22百万円	(△ 7 百万円)
【流動負債】		
支払手形・買掛金	355百万円	(67 百万円)
短期借入金	19百万円	(6 百万円)
前受金	18百万円	(△ 3 百万円)
未払税等	31百万円	(0 百万円)
【固定負債】		
再評価に係る繰延税金負債	196百万円	(0 百万円)
退職給付に係る負債	178百万円	(△ 4 百万円)

財務指標

	平成29年 3月期末	平成30年 3月期末
自己資本比率	72.8%	71.7%
有利子負債	434百万円	70百万円

連結キャッシュ・フロー計算書



(単位:千円)

科 目	平成29年3月期	平成30年3月期	前年同期比 増減
営業活動による キャッシュ・フロー	△372,642	△ 51,143	321,498
投資活動による キャッシュ・フロー	△5,236	△ 94,431	△ 89,195
財務活動による キャッシュ・フロー	3,000	6,199	3,199
現金及び現金同等物に 係る換算差額	△8,479	1,411	9,891
現金及び現金同等物の 増減額	△383,358	△ 137,964	245,394
現金及び現金同等物の 期首残高	1,817,305	1,433,946	△ 383,358
現金及び現金同等物の 期末残高	1,433,946	1,295,982	△ 137,964

【営業活動によるキャッシュ・フロー】

税引前当期純利益	6百万円 (+)
減価償却費	20百万円 (+)
売上債権の増加	△118百万円 (-)
たな卸資産の増加	△1百万円 (-)
仕入債務の増加	67百万円 (+)
前受金減少	△3百万円 (-)
法人税等の支払額	△9百万円 (-)
その他	8百万円 (+)

【投資活動によるキャッシュ・フロー】

定期預金の減少	111百万円 (+)
有形固定資産取得支出	△9百万円 (-)
保険積立金解約収入	10百万円 (+)
投資有価証券の取得支出	△204百万円 (-)

【財務活動によるキャッシュ・フロー】

短期借入金の増加	6百万円 (+)
----------	----------

部門別売上高



(単位：千円)

	平成29年3月期		平成30年3月期		前年同期比	
	売上高	構成比	売上高	構成比	金額	増減率
工業炉燃焼装置製造業	2,588,666	99.93%	2,367,403	99.92%	△221,262	△8.55%
H R S 部門	445,545	17.20%	525,599	22.18%	80,053	17.97%
工業炉部門	879,365	33.95%	845,800	35.70%	△33,564	△3.82%
プロセスプラント部門	568,908	21.96%	365,133	15.41%	△203,775	△35.82%
ボイラ部門	183,493	7.08%	203,031	8.57%	19,537	10.65%
部品部門	275,844	10.65%	253,695	10.71%	△22,149	△8.03%
メンテナンス部門	235,508	9.09%	174,143	7.35%	△61,364	△26.06%
その他の事業	1,800	0.07%	1,800	0.08%	0	0.00%
合 計	2,590,466	100.00%	2,369,203	100.00%	△221,262	△8.54%

部門別受注状況



(単位:千円)

	平成29年3月期		平成30年3月期		前年比増減額	
	受注高	期末受注残	受注高	期末受注残	受注高	期末受注残
工業炉燃焼装置製造業	1,942,800	836,062	2,420,323	888,980	477,523	52,918
H R S 部門	422,535	123,739	486,226	84,366	63,691	△39,373
工業炉部門	395,699	239,795	717,280	111,275	321,581	△128,520
プロセスプラント部門	389,588	173,682	523,168	331,716	133,580	158,034
ボイラ部門	224,099	185,254	161,540	143,763	△62,559	△41,491
部品部門	244,064	22,998	283,124	52,427	39,060	29,429
メンテナンス部門	266,808	90,592	248,985	165,434	△17,823	74,842
その他の事業	—	—	—	—	—	—
合 計	1,942,800	836,062	2,420,323	888,980	477,523	52,918

★決算総括

- 売上高減少も利益率は大幅改善
- 原油価格の影響等により、厳しい事業環境が継続

平成30年3月期 業績予想

(単位：百万円)

科 目	平成30年3月期	平成31年3月期	
	通期(実績)	通期 (予想)	前年同期比
売上高	2,369	2,500	5.5%
営業利益(損失)	△7	80	—
経常利益(損失)	2	80	—
親会社株主に帰属する 当期純利益(損失)	△2	60	—
1株当たり 当期純利益(損失)	△0.08円	1.30円	—

積極的施策により、売上高拡大および黒字化を見込む

目 次



-  1 会社概要
-  2 事業内容
-  3 平成30年3月期 決算概要
-  4 今後の戦略について
-  5 参考資料

オリンピア工業との事業提携について

オリンピア工業との事業提携は第4段階へ

第1段階 オリンピア工業による出資(資本提携)

第2段階 オリンピア工業への製造委託で原価低減

第3段階 人的交流を含む技術的交流深化



第4段階 オリンピア工業との協業へ

- ① オリンピア製超低NOxバーナを利用した、既設ボイラ燃転事業及び熱プラント新設事業を中国市場で展開
- ② 製造機能の統合

★オリンピア製超低Noxバーナとは

- ・ オリンピア製超低NOxバーナは、中国都市部の厳しい環境基準をクリアする数少ないバーナの1つであり、中国国内の吸収式冷温水機メーカーに納入。
- ・ オリンピア社では前々期4.5億、前期9億の実績があり、今期も大幅な売上増を見込んでいる。

★当社の役割

- ・ オリンピア製超低NOxバーナを応用して既設の大型ボイラ（炉筒煙管、水管）向けの燃転商品（改造設計、部品・資材調達、加工・組立・設置工事、工事監理、保守サービス）を提供。
- ・ IOT技術の応用によって、燃烧状態監視（環境性能及び省エネの維持）や安定稼働（予防保守サービスの提供）という付加価値を提供。

研究開発体制



☆ 日本ファーンズ燃焼技術研究所

宮崎県西都市に日本ファーンズ燃焼技術研究所を保有。

国内最大規模の燃焼試験システム（燃焼試験装置＋測定機器＋解析システム）により、短期間での開発を実現。

開発実績

- ・N F K H i C D F バーナ （ロータリーキルン用ハイモーメンタムバーナ）
- ・S R X - E バーナ （石油加熱炉用低NO_x型バーナ）



戦略的新製品



石油加熱炉用低NOx型バーナ

S R X - Eバーナ

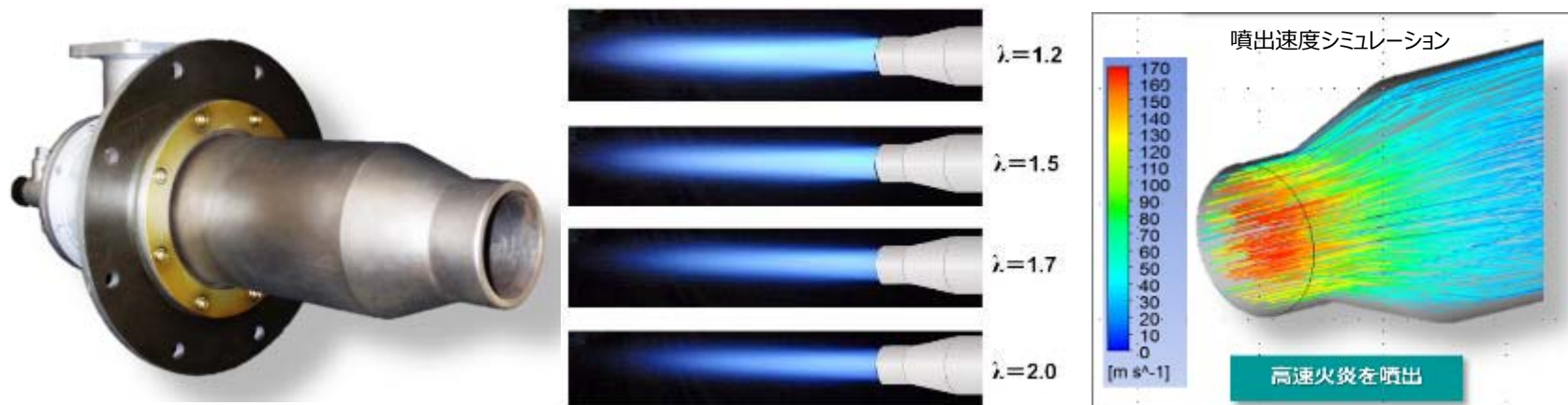
- ・海外製油所向けバーナ市場での競争力強化
- ・既存顧客への競合他社攻勢を排除し交換需要に対応
- ・国内シェア巻き返しとアジア、中東でのシェア拡大
- ・シェア拡大によりメンテ・部品交換ベースを拡大
- ・日本ファーンズ燃烧技術研究所で実証実験済み



NFK-JSA型 ハイスピード バーナ

戦略的新製品 **NFK-JSA型 ハイスピード バーナ** (NFK-Jet Swirl Air Flow バーナ納入開始)

- ・150m/s 以上の高速流火炎噴出で炉内を攪拌、炉内ガス巡回を促進
- ・炉内循環ファンなしでも温度分布を良好に維持
- ・低空気比から高過剰空気比に対応
- ・ダイレクト点火方式の為パイロットバーナ・バーナタイル不要
- ・非常に小型・軽量化を実現
- ・平成29年3月期より納入を開始。台車式熱処理炉等に配備



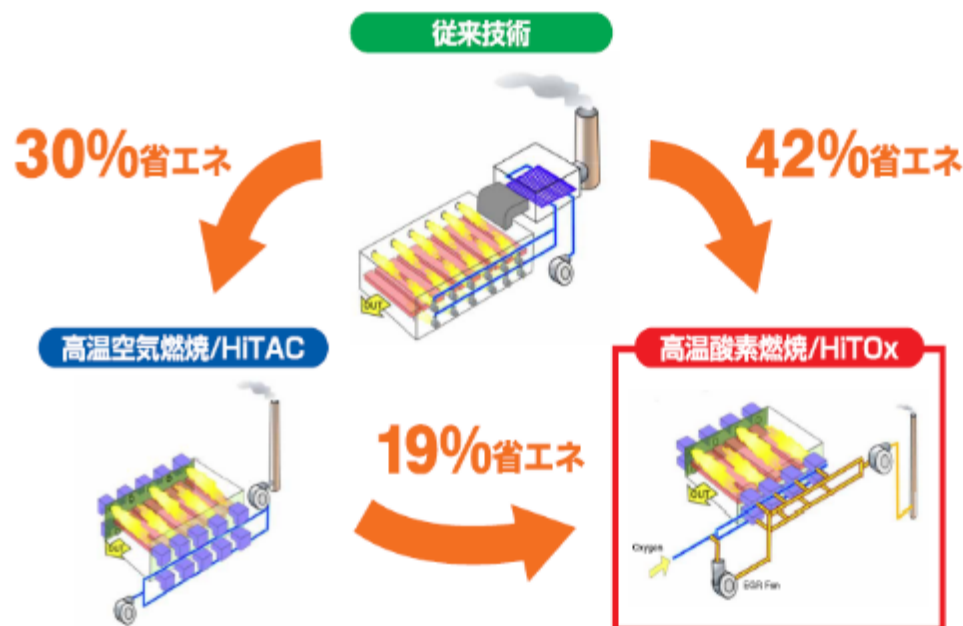
高温酸素燃焼技術HiTOxの開発

高温空気燃焼技術を発見し、その開発をリードした
N F Kグループの新たな挑戦

■ 高温酸素燃焼装置とは？

従来の空気を使った燃焼では無く、純粋な酸素を高温にして燃焼させることにより、排ガス量低下による効率化を実現するとともに、 $\text{NO}_x = 0$ レベルの燃焼を実現する事が可能となる。

高温酸素燃焼の工業的な利用方法（連続鉄鋼加熱炉の場合）



想定されるメリット

- 排ガス量低下、装置小型化による放熱損失低減
- 輻射伝熱量増加による炉長の短縮

・省エネ
・ $\text{NO}_x \div 0 \text{ ppm}$
の実現へ

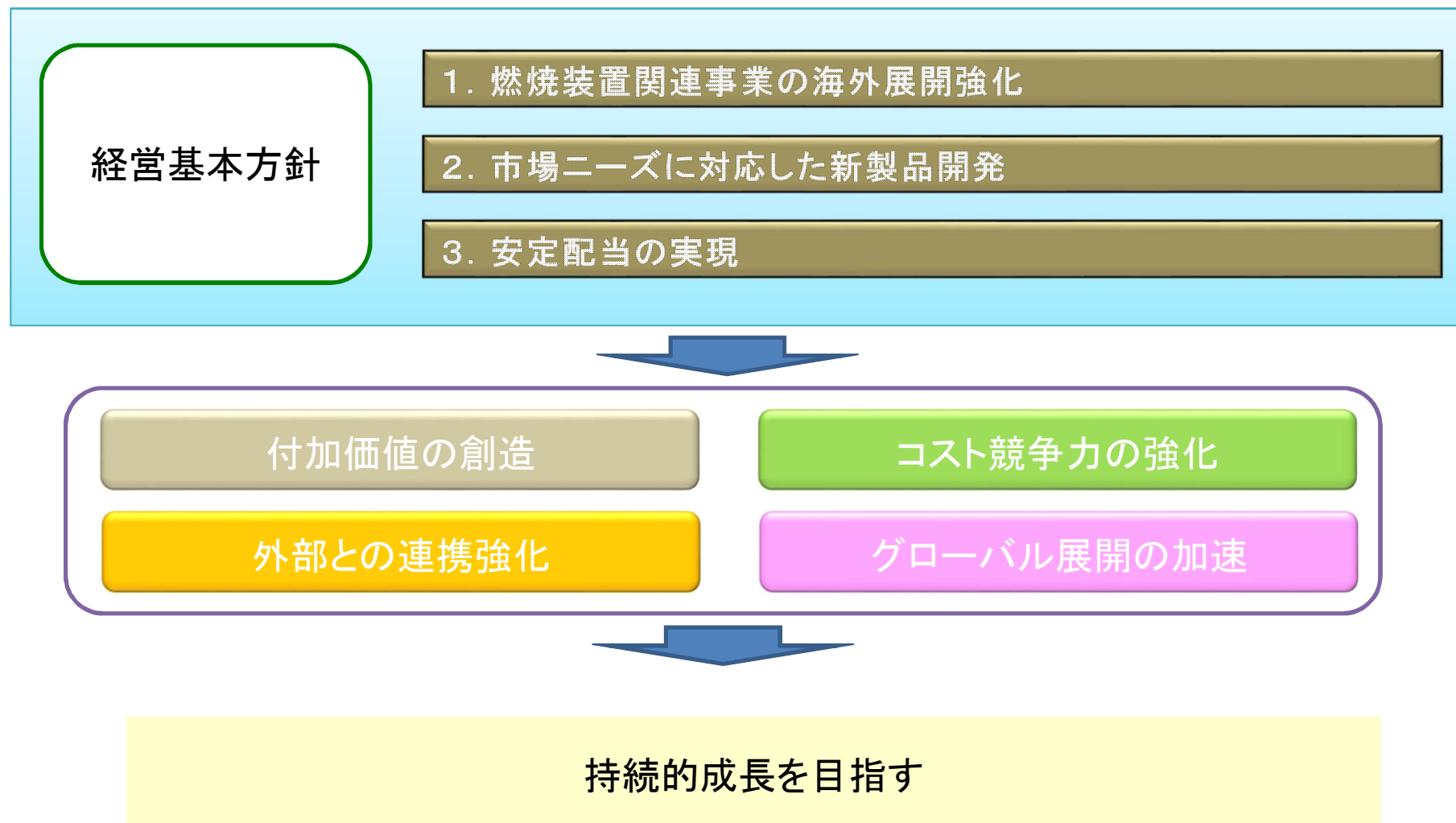
目 次



-  会社概要
-  事業内容
-  平成30年3月期 決算概要
-  今後の戦略について
-  参考資料

「19 中期経営計画」

2017~19年度を対象とする「19 中期経営計画」を策定



「19 中期経営計画」 重点戦略

付加価値の創造

- ・ニーズをつかみ価値を創出
- ・販路活用と開拓
- ・基幹商品提案の強化

外部との連携強化

- ・コア技術育成
- ・マーケットチャネル活用
- ・高付加価値の追求

コスト競争力の強化

- ・生産、物流の効率化
- ・ものづくりの技術革新
- ・加工メーカーの刷新

エリアニーズを捉えた提案

- ・新たな商品カテゴリー拡大
- ・戦略商品で展開エリア強化

持続的成長を目指す

「19 中期経営計画」

<積極的施策により、2019年度売上40億を目指す>

(単位: 百万円)

	平成28年 3月期(実績)	平成29年 3月期(実績)	平成30年 3月期(計画)	平成31年 3月期(計画)	平成32年 3月期(計画)	19中計期間 増額予定分
売 上 高	1,839	2,590	2,500	3,300	4,000	1,410
対 前 年 増 収 率 (%)	△143	△139				
経 常 利 益 (損 失)	△154	△142	50	200	400	542
親会社株主に帰属する 当期純利益(損失)	△175	△179	40	160	280	459
純 資 産	2,860	2,690	2,730	2,890	3,140	450
1 株 利 益 (円)	△5.73	△5.85	1.3	5.21	9.12	14.97
1 株 純 資 産 (円)	93.14	87.61	88.88	94.10	102.24	14.63
配 当 (円)	0.00	0.00	0.00	1.00	2.00	2.00

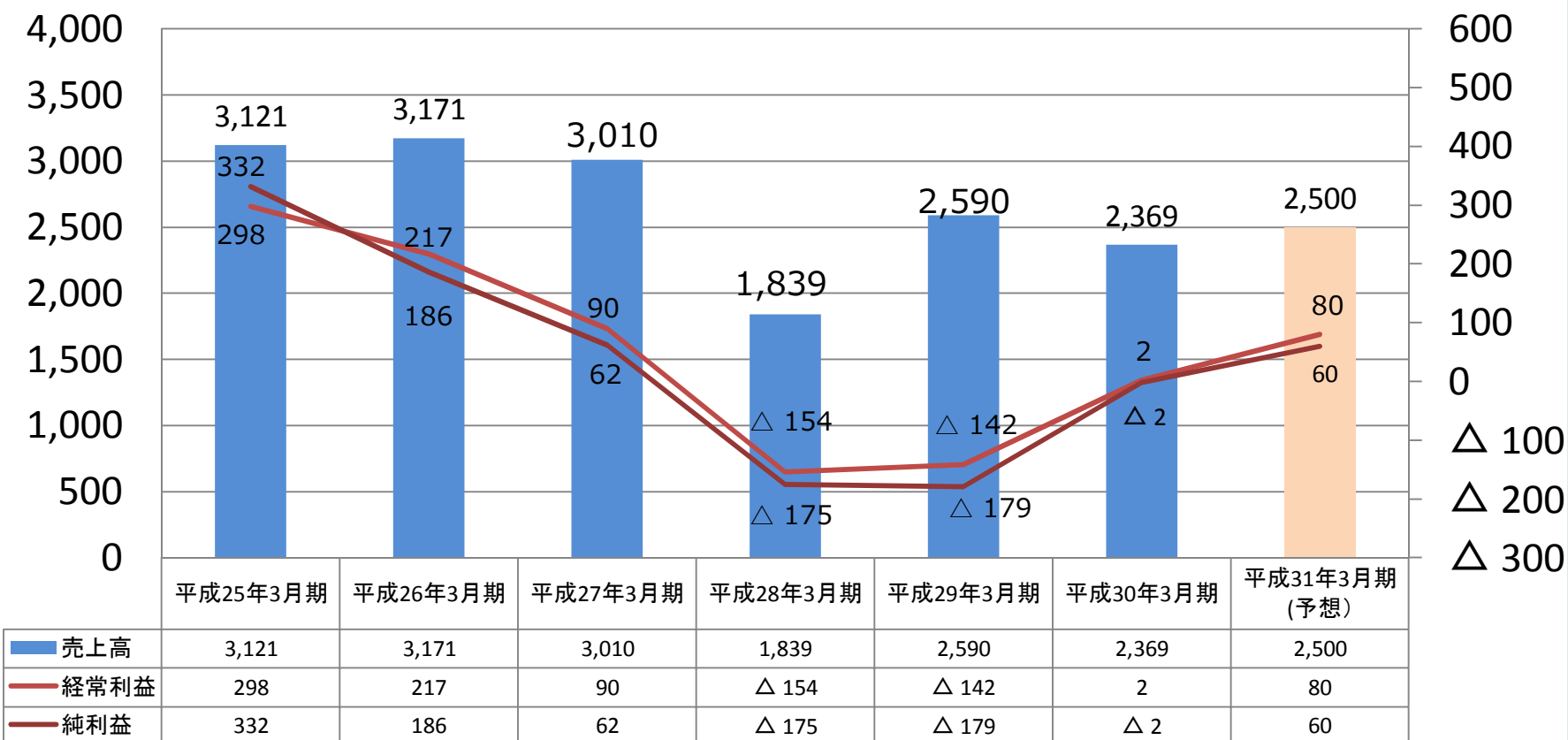
業績の推移



■ 急激な原油価格の変動により平成28年3月期は厳しい状況となるが、
現在は回復傾向へ

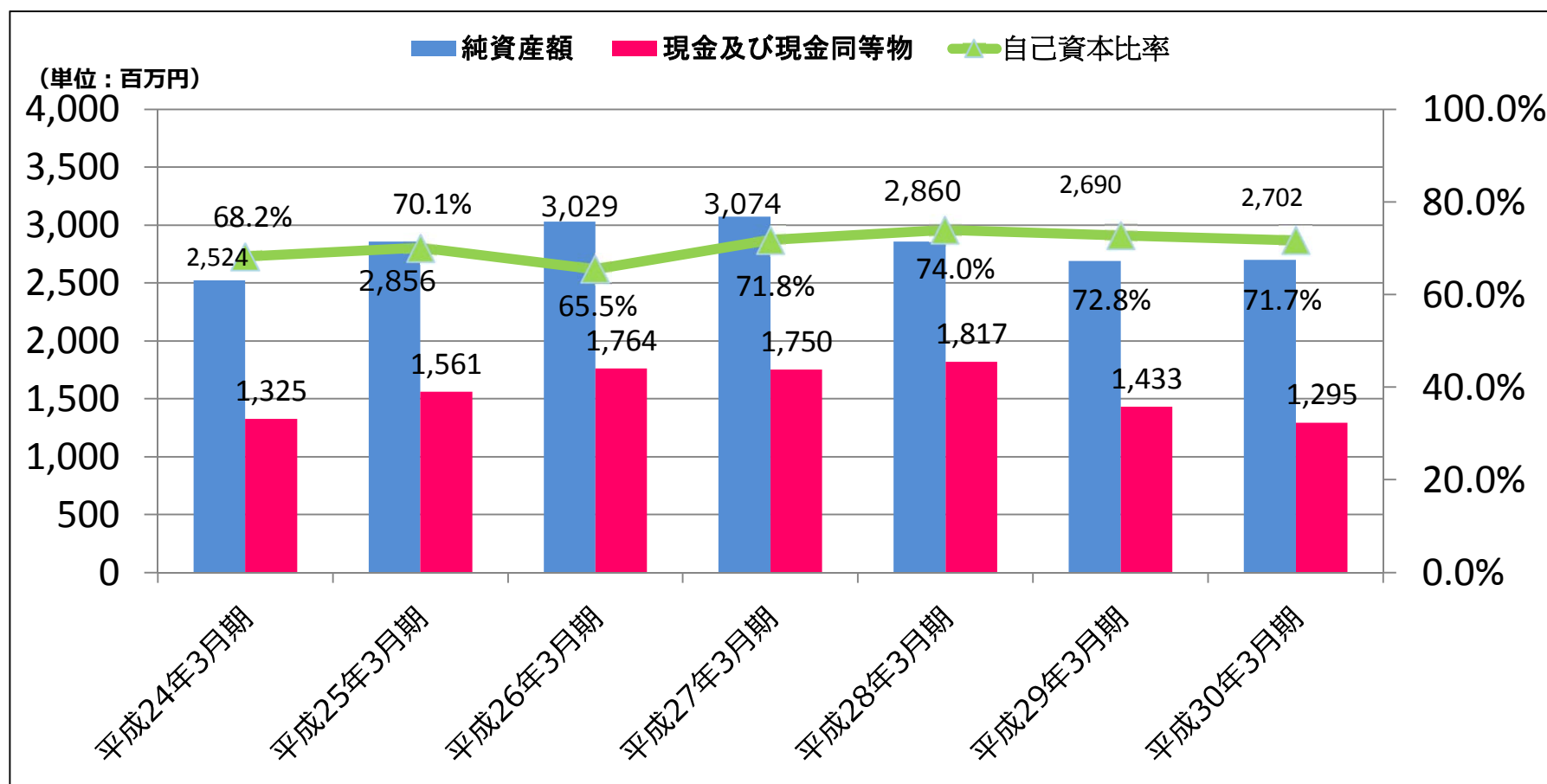
(単位：百万円)

売上高、経常利益、純利益の推移



財務状況の推移

- 高い自己資本比率を堅持
- 純資産に占める現金および現金同等物の比率が高い
- 健全で安定した財務状況



I R活動の状況

I Rサイト



■ IRサイト

<http://www.nfk-hd.co.jp/ir/>

I Rツール



■ 株主通信

当社株主の皆様には6月と12月の年2回お送りしております。

**東証 I R
フェスタ**
(H30年3月開催)

**機関投資家・アナリ
スト向け決算説明会**
(年2回開催)

**株主向け
技術説明会**
(年1回開催)

ご留意事項



本資料に記載されている計画・戦略・見通しおよびその他の歴史的事実でないものは、将来に関する見通しであり、これらは現在入手可能な期待・見積り・予想に基づいております。これらの期待・見積り・予想は経済情勢や競争環境の変化等の潜在的なリスク・不確定要素、仮定の影響を受けますので、実際の実績は見通しとは異なる可能性がございます。

また、当社は新しい情報・将来の出来事などに基づきこれらの将来予測を更新する責務を負うものではありません。

本件に関するお問い合わせ

株式会社N F Kホールディングス（I R企画室） 045-575-8000（代表）

WEBによる場合はこちらへお問い合わせ願います

E-mail : ir@nfk-hd.co.jp

